

コマツ
2017年度 第2四半期(中間)
決算説明会

2017年10月27日(金)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
代表取締役副社長(兼)CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

I. 2017年度 第2四半期(中間)決算の概要 <P4-P15>

- P4-7 : 2017年度第2四半期(7-9月)の概況
P8-9 : 2017年度上期(4-9月)の概況
P10-12 : <建設機械・車両> 2017年度上期(4-9月)の状況、KMC*の概況
P13 : <リテールファイナンス> 2017年度上期(4-9月)の状況
P14 : <産業機械他> 2017年度上期(4-9月)の状況
P15 : 連結貸借対照表

II. 2017年度の見通し <P17-P32>

- P17-18 : 2017年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
P19-20 : <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し
P21 : <建設機械・車両> KMC*の業績見通し
P22 : <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
P23 : <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し
P24-29 : <建設機械・車両> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
P30-31 : <建設機械・車両> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
P32 : <建設機械・車両> 部品の売上高の見通し

III. KMC*統合計画の概要<P34-P36>

- P34-36 : KMC*統合計画の概要

参考資料 <P38-P44>

- P38-41 : 四半期毎の状況
P42-44 : BBLレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕

* KMCはコマツマイニング(Komatsu Mining Corp.)を示す。

I. 2017年度 第2四半期（中間）決算の概要

注記

本年4月5日、ジョイ・グローバル社(Joy Global Inc.)の買収が完了しました。その後、4月19日に商号をコマツマイニング（Komatsu Mining Corp.（以下KMC））に変更しています。2017年度第1四半期の決算数値より、連結子会社となったKMCの業績が含まれています。

- ・連結売上高は前年同期比+46.9%増収の5,977億円。
- ・営業利益は前年同期比+75.4%増益の602億円。売上高営業利益率は同+1.7ポイント増の10.1%。
- ・純利益は前年同期比+198.0%増益の653億円。

金額単位：億円	2016年7-9月 ¥102.9/USD ¥114.6/EUR ¥15.4/RMB	2017年7-9月		前年同期比		
		¥110.9/USD ¥129.9/EUR ¥16.6/RMB	*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	4,068	5,977	5,208	769	+1,908	+46.9%
セグメント利益(▲損失)	352	607	676	*2 ▲69	+254	+72.3%
その他の営業収益(▲費用)	▲8	▲5	▲4	▲0	+3	-
営業利益(▲損失)	343	602	672	*2 ▲70	+258	+75.4%
売上高営業利益率(▲損失率)	8.4%	10.1%	12.9%	▲9.1%	+1.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲4	358			+362	-
税引前純利益	338	960			+621	+183.3%
純利益*3	219	653			+434	+198.0%

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

PPAによる償却費 ※	▲163億円
スタートアップ費用ほか	▲9億円
合計	▲173億円

※ PPAは Purchase Price Allocation
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

□為替レートは、1ドル:110.9円、1ユーロ:129.9円、1元:16.6円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円安となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円安となりました。

□連結売上高は、前年同期比+46.9%増収の5,977億円、営業利益は+75.4%増益の602億円となりました。営業利益率は+1.7ポイント増の10.1%です。

□純利益は+198.0%増益の653億円です。

□連結売上高は、従来コマツのベースでの売上増加に加え、KMCの新規連結の効果もあり、増収となりました。

□営業利益については、KMCの一時費用の影響が大きく、KMCは営業損失となりましたが、従来コマツベースでの利益拡大の結果、全体として増益となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+55.4%増収の5,493億円。セグメント利益は+78.6%増益の557億円。セグメント利益率は+1.4ポイント改善し、10.2%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+17.9%増収の136億円。セグメント利益は+10.9%増益の25億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲8.4%減収の405億円。セグメント利益は+4.9%増益の24億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年7-9月		2017年7-9月		前年同期比							
					増減	増減率						
売上高	4,068	5,977	5,208	769	+1,908	+46.9%						
建設機械・車両	(3,518)	3,534	(5,458)	5,493	(4,688)	4,724	(769)	769	(+1,939)	+1,958	(+55.1%)	+55.4%
リテールファイナンス	(109)	116	(116)	136	(116)	136	-	(+7)	+20	(+6.5%)	+17.9%	
産業機械他	(440)	442	(402)	405	(402)	405	-	(▲37)	▲37	(▲8.6%)	▲8.4%	
消去		▲24		▲58		▲58		-		▲33		-
セグメント利益(▲損失)	8.7%	352	10.2%	607	13.0%	676	▲9.0%	▲69		+254		+72.3%
建設機械・車両	8.8%	312	10.2%	557	13.3%	627	▲9.0%	▲69		+245		+78.6%
リテールファイナンス	20.1%	23	18.9%	25	18.9%	25		-		+2		+10.9%
産業機械他	5.3%	23	6.1%	24	6.1%	24		-		+1		+4.9%
消去または全社		▲6		▲1		▲1		-		+5		-

各セグメントの状況：

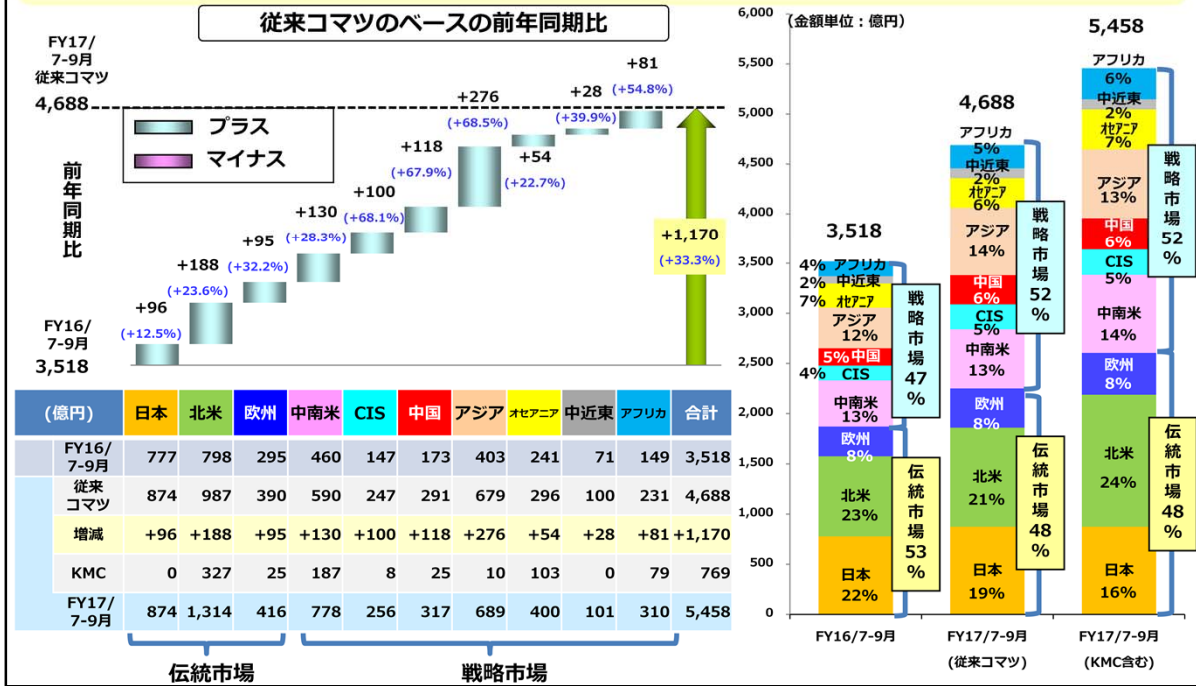
- 建設機械・車両
中国、インドネシアなどでの一般建機の売上と鉱山機械の売上増加に加え、KMCの新規連結の効果により増収。利益面はKMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失となったが、従来コマツのベースでの利益拡大の結果、全体として増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加などに伴い、増収。利益面も、前年同期に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなったことから増益。
- 産業機械他
コマツ産機での売上減少により減収。一方利益面は、堅調なギガフォトンなどの業績に支えられ増益。

□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+55.4%増収の5,493億円、セグメント利益は+78.6%増益の557億円となりました。中国、インドネシアなどでの一般建機の売上と鉱山機械の売上の増加に加え、KMCの新規連結の効果により増収となりました。利益面は、KMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失ですが、従来コマツのベースでの利益拡大の結果、全体として増益となりました。

□リテールファイナンスの売上高は、前年同期比+17.9%増収の136億円、セグメント利益は+10.9%増益の25億円となりました。主に北米での資産の増加などに伴い、増収となりました。利益面は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となっています。

□産業機械他の売上高は、前年同期比▲8.4%減収の405億円、セグメント利益は+4.9%増益の24億円となりました。コマツ産機での鍛圧機械および工作機械の販売が減少したことにより減収。一方利益面は、堅調なギガフォトンなどの業績に支えられ増益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+55.1%増収の5,458億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+33.3%増収の4,688億円。
- ・従来コマツのベースでは、すべての地域で売上高が増加。特に、アジア・中国・CISでの売上の伸び率が大きい。戦略市場の比率は52%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率も52%)



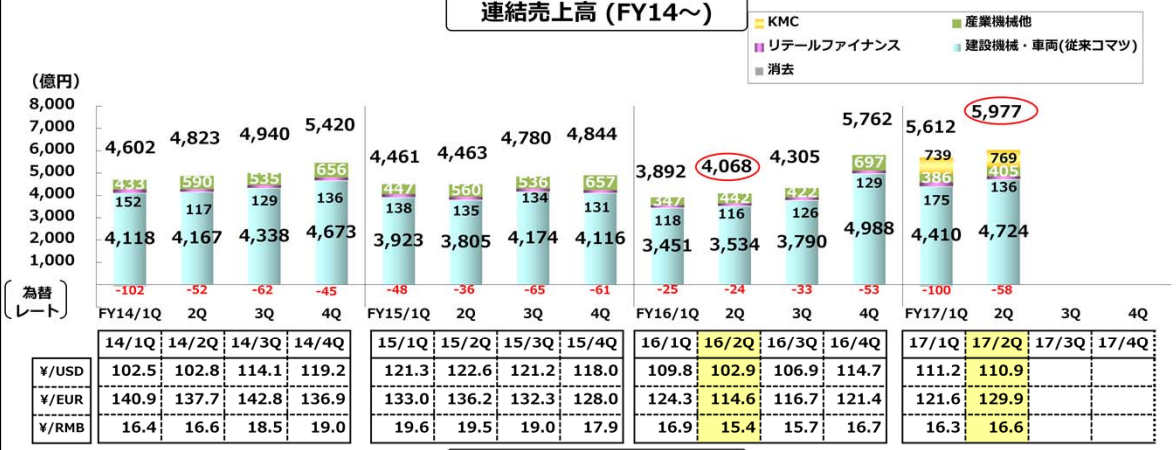
□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+55.1%増収の5,458億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+33.3%増収の4,688億円となりました。

□従来コマツのベースでは、すべての地域で売上高が増加。特に、アジア・中国・CISでの売上の伸び率が大きいことから、戦略市場の比率は52%に上昇しました。

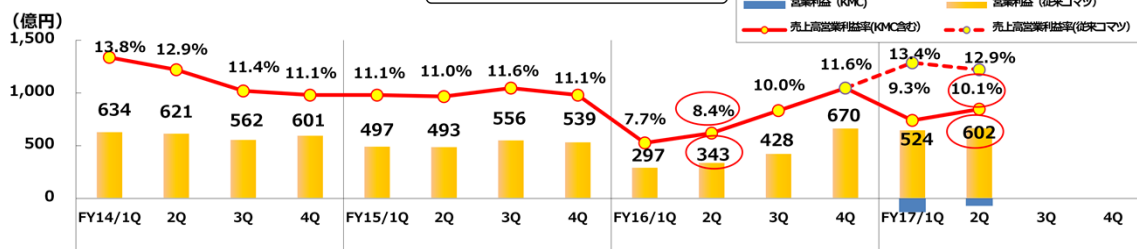
KMCを含む全体での戦略市場比率も52%となりました。

【参考資料】
四半期毎の売上高と営業利益の推移

連結売上高 (FY14~)



営業利益 (FY14~)



- ・連結売上高は前年同期比+45.6%増収の1兆1,589億円。
- ・営業利益は前年同期比+75.6%増益の1,126億円。売上高営業利益率は同+1.6ポイント増の9.7%。
- ・純利益は前年同期比+171.2%増益の1,017億円。

金額単位：億円	2016年度上期 ¥106.3/USD ¥119.5/EUR ¥16.1/RMB	2017年度上期 ¥111.1/USD ¥125.8/EUR ¥16.4/RMB	*1		前年同期比	
			従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	7,961	11,589	10,080	1,509	+3,628	+45.6%
セグメント利益(▲損失)	642	1,137	1,336	*2 ▲198	+494	+77.0%
その他の営業収益(▲費用)	▲1	▲10	▲10	▲0	▲9	-
営業利益(▲損失)	641	1,126	1,326	*2 ▲199	+484	+75.6%
売上高営業利益率(▲損失率)	8.1%	9.7%	13.2%	▲13.2%	+1.6ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲60	314			+375	-
税引前純利益	580	1,441			+860	+148.1%
純利益*3	375	1,017			+642	+171.2%
1株当たり配当金(円)	29円	36円			+7円	

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

(注) 本資料では第2四半期累計期間(4月~9月)を「上期」と表示します。

※ PPAはPurchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

PPAによる償却費 ※	▲330億円
スタートアップ費用ほか	▲36億円
合計	▲366億円

□為替レートは、1ドル:111.1円、1ユーロ:125.8円、1元:16.4円です。前年同期比で、円はドル、ユーロ、元に対して円安となりました。

□連結売上高は、前年同期比+45.6%増収の1兆1,589億円、営業利益は+75.6%増益の1,126億円となりました。営業利益率は+1.6ポイント増の9.7%です。

□純利益は+171.2%増益の1,017億円です。

□連結売上高は、従来コマツのベースでの売上増加に加え、KMCの新規連結の効果もあり、増収となりました。

□営業利益については、KMCの一時費用の影響が大きく、KMCは営業損失となりましたが、従来コマツのベースでの利益拡大の結果、全体として増益となりました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は+52.4%増収の1兆644億円。セグメント利益は+80.1%増益の1,037億円。セグメント利益率は+1.5ポイント改善し、9.7%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は+33.1%増収の312億円。セグメント利益は+40.2%増益の59億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、前年同期並の791億円。セグメント利益は+19.2%増益の48億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年度上期	2017年度上期		前年同期比		
		従来コマツ	KMC	増減	増減率	
売上高	7,961	11,589	10,080	1,509	+3,628	+45.6%
建設機械・車両	(6,952)6,986	(10,568)10,644	(9,059)9,134	(1,509)1,509	(+3,615)+3,657	(+52.0%)+52.4%
リテールファイナンス	(222)234	(236)312	(236)312	-	(+13) +77	(+6.2%)+33.1%
産業機械他	(785)790	(784)791	(784)791	-	(▲0) +1	(▲0.1%)+0.2%
消去	▲50	▲158	▲158	-	▲108	-
セグメント利益(▲損失)	8.1% 642	9.8% 1,137	13.3% 1,336	▲13.2% ▲198	+494	+77.0%
建設機械・車両	8.2% 576	9.7% 1,037	13.5% 1,236	▲13.2% ▲198	+461	+80.1%
リテールファイナンス	18.0% 42	18.9% 59	18.9% 59	-	+16	+40.2%
産業機械他	5.1% 40	6.1% 48	6.1% 48	-	+7	+19.2%
消去または全社	▲16	▲7	▲7	-	+8	-

各セグメントの状況：

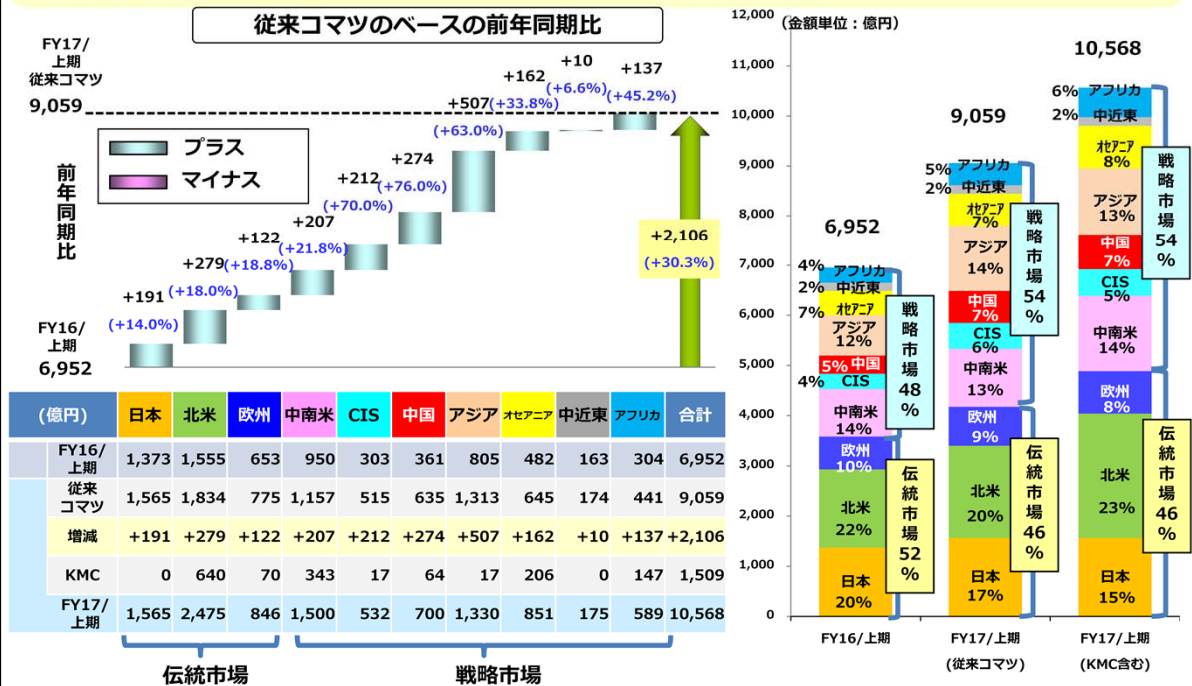
- 建設機械・車両
需要が回復している中国やインドネシアの一般建機、鉱山機械の売上増加及びKMCの新規連結の効果により増収。利益面はKMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失となったが、従来コマツのベースでの利益拡大の結果、全体として増益。
- リテールファイナンス
チリでの売上げの増加や北米での資産の増加などに伴い、増収。利益面も、前年同期に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなったことから増益。
- 産業機械他
売上高は前年同期並。

□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+52.4%増収の1兆644億円、セグメント利益は+80.1%増益の1,037億円となりました。需要が回復している中国やインドネシアの一般建機、鉱山機械の売上増加に加え、KMCの新規連結の効果により増収となりました。利益面は、KMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失ですが、従来コマツのベースでの利益拡大の結果、全体として増益となりました。

□リテールファイナンスの売上高は、前年同期比+33.1%増収の312億円、セグメント利益は+40.2%増益の59億円となりました。チリでの売上げの増加や北米での資産の増加などに伴い、増収となりました。利益面は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となっています。

□産業機械他の売上高は、前年同期並の791億円、セグメント利益は+19.2%増益の48億円となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+52.0%増収の1兆568億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+30.3%増収の9,059億円。
- ・従来コマツのベースでは、すべての地域で売上高が増加。特に、中国・CIS・アジアでの売上の伸び率が大きい。戦略市場の比率は54%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率も54%)

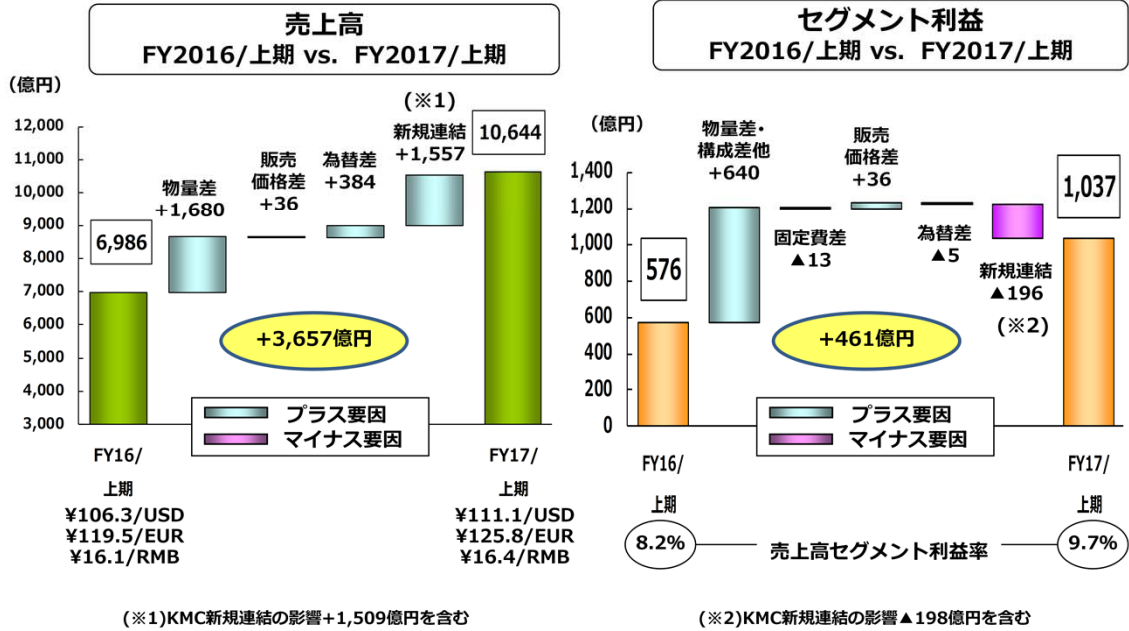


□建設機械・車両の売上高は、前年同期比+52.0%増収の1兆568億円。そのうち、KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+30.3%増収の9,059億円となりました。

□従来コマツのベースでは、すべての地域で売上高が増加。特に、中国・CIS・アジアでの売上の伸び率が大きいことから、戦略市場の比率は54%に上昇しました。

KMCを含む全体での戦略市場比率も54%となりました。

- ・売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+3,657億円の増収。
- ・セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの全体としては+461億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年同期比+1.5ポイント増の9.7%。



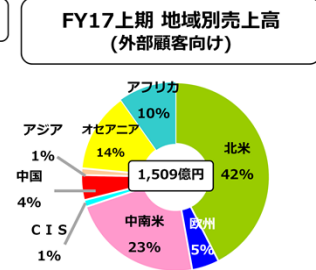
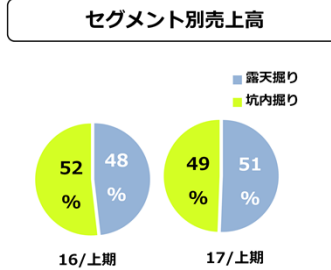
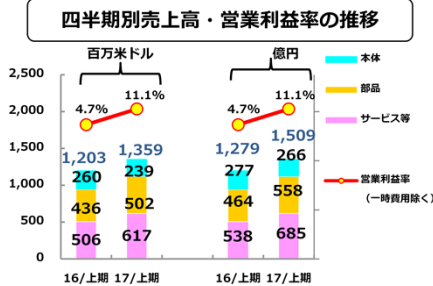
□売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年同期比+3,657億円の増収となりました。

□セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの全体としては+461億円の増益となり、売上高セグメント利益率は前年同期比+1.5ポイント改善し、9.7%となりました。

- ・売上高は、前年同期比+17.9%増の1,509億円。
- ・一時費用除く営業利益は167億円。一時費用▲366億円を含めると▲199億円の営業損失。

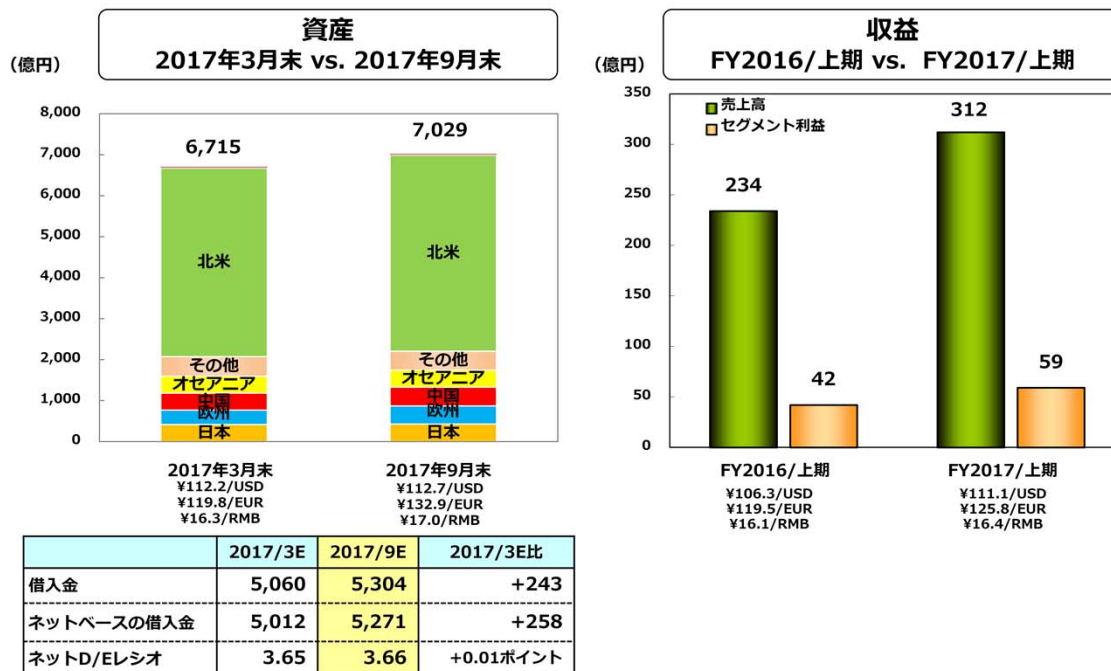
(金額単位：億円)	2016年度上期 (参考) ※1 (¥106.3/USD)	2017年度上期 (¥111.1/USD)	前年同期比(参考)	
			増減	増減率
売上高	1,279	1,509	+229	+17.9%
本体	277	266	▲11	▲4.0%
部品	464	558	+93	+20.2%
サービス等	538	685	+147	+27.4%
営業利益 <一時費用除く>	4.7% 60	11.1% 167	+107	+178.4%
一時費用 (マイナスで表記)	▲63	▲366	▲303	-
PPAによる償却費 ※2	-	※3 ▲330	▲330	-
スタートアップ費用ほか	▲63	▲36	+27	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	▲0.2% ▲3	▲13.2% ▲199	▲196	-

※1：前年同期である2016年4-9月(コマツの決算期に組替)の数値を参考に記載している。
 ※2：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き
 ※3：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円



- 前年同期である2016年度上期の数値を、コマツの決算期に組み替えて表示しています。当社の連結決算にはまだ入っていない時期の数値です。
- 今回より部品についても個別開示し、本体・部品・サービス等の3つのセグメントで開示しております。
- 2017年度上期のKMCの売上高は、前年同期比+17.9%増の1,509億円となりました。うち、本体は前年同期比▲4.0%減の266億円、部品は前年同期比+20.2%増の558億円、サービス等は前年同期比+27.4%増の685億円という状況です。
- 一時費用除く営業利益は167億円です。一時費用▲366億円を含めると▲199億円の営業損失となりました。
- PPA (Purchase Price Allocation) による償却費は▲330億円となり、そのうち棚卸資産に係る金額は▲258億円です。
- セグメント別の売上高比率は、露天掘りが51%、坑内掘りは49%でした。
- 地域別売上高のうち、北米の割合は42%です。

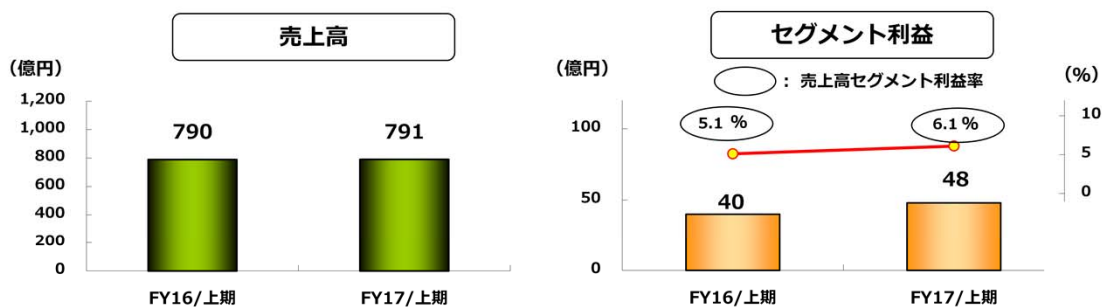
- ・資産は主に北米等でファイナンス契約が増えたことにより増加。
- ・収益は主として、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益。



□リテールファイナンスの資産は、主に北米等でファイナンス契約が増えたことにより増加しました。

□収益については、前年同期に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となりました。

・売上高は前年同期並の791億円。売上高セグメント利益率は6.1%。



売上高の内訳

金額単位：億円	FY2016 上期	FY2017 上期	前年同期比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	227	218	▲9	▲4.2%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	246 [78]	271 [21]	+24 [▲57]	+10.1% [▲72.8%]
ギガフォトン	159	171	+12	+7.9%
その他	156	130	▲26	▲16.7%
合計	790	791	+1	+0.2%

□産業機械他部門の売上高は、前年同期並の791億円となりました。

□セグメント利益は前年同期比+7億円増益の48億円、セグメント利益率は前年同期比で+1.0ポイント増の6.1%となりました。

- ・総資産はKMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+6,737億円の増加。
- ・借入金・社債については、KMC買収等により、前年度末比で+4,086億円増加の8,173億円。
- ・株主資本比率は前年度末比▲9.6ポイント減の49.8%。

(金額単位：億円)	2017年3月末		増減	2017年9月末 KMC 新規連結の影響
	¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥ 16.3/RMB	¥112.7/USD ¥132.9/EUR ¥ 17.0/RMB		
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,221	1,639	+417	215
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	9,332	10,593	+1,261	805
棚卸資産	5,338	7,125	+1,786	1,075
有形固定資産	6,790	7,636	+846	849
その他資産	3,881	6,307	+2,425	2,805
資産合計	26,564	33,302	+6,737	5,748
支払手形・買掛金	2,401	2,870	+468	317
借入金・社債 [b]	4,087	8,173	+4,086	1,057
その他負債	3,591	4,904	+1,313	1,201
負債合計	10,079	15,948	+5,868	2,575
(株主資本比率)	(59.4%)	(49.8%)	(▲9.6ポイント)	
株主資本	15,766	16,588	+821	
非支配持分	718	766	+47	
負債及び純資産合計	26,564	33,302	+6,737	
→ 補Dの借入金・社債 [b-a]	2,865	6,533	+3,668	
→ 補D/Eの	0.18	0.39		

□総資産は前年度末比で+6,737億円増加しました。KMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴うものです。KMCの新規連結の影響と為替の影響を除いた従来コマツのベースの実質差は+581億円の増加です。

□棚卸資産については、前年度末比で+1,786億円増加しました。KMCの新規連結の影響と為替の影響を除いた従来コマツのベースの実質差は+586億円の増加です。鉱山機械の在庫などが増加しています。

□借入金・社債は、KMC買収等により、前年度末比で+4,086億円増加の8,173億円となりました。KMCの借入金・社債の残高は1,057億円です。

□株主資本比率は前年度末比▲9.6ポイント減の49.8%となりました。

Ⅱ. 2017年度の見通し

- ・中国、インドネシアなど戦略市場での一般建機の売上と鉱山機械の売上を中心に想定を上回ったことに加え、下期為替の前提を、1ユーロ：123円、1元：15.5円に見直す（ドルは105円を据え置き）ことにより業績予想を上方修正。
- ・連結売上高は前年比+29.1%増収の2兆3,280億円(期初見通しから+1,930億円上方修正)、営業利益は前年比+24.1%増益の2,160億円(期初見通しから+600億円上方修正)の見通し。

金額単位：億円	2016年度 (A) ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	2017年度 見通し(最新) (B) ¥108.0/USD ¥124.4/EUR ¥16.0/RMB	従来ベース		2017年度 見通し(期初) (C) ¥105.0/USD ¥115.0/EUR ¥15.0/RMB	従来ベース		前年比(B-A)	
			従来コマツ *1	KMC		従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	21,350	18,800	2,560	+5,250	+29.1%
セグメント利益(▲損失)	1,765	2,360	2,560	*2 ▲200	1,640	2,030	*2 ▲390	+594	+33.7%
その他の営業収益(▲費用)	▲24	▲200	▲200	-	▲80	▲80	-	▲175	-
営業利益(▲損失)	1,740	2,160	2,360	*2 ▲200	1,560	1,950	*2 ▲390	+419	+24.1%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.7%	9.3%	11.6%	▲6.9%	7.3%	10.4%	▲15.2%	▲0.4 [※] ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲76	210			▲150			+286	-
税引前純利益	1,664	2,370			1,410			+705	+42.4%
純利益*3	1,133	1,590			920			+456	+40.2%
ROE	7.3%	10.1%			5.9%			+2.8 [※] ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	72円			58円			+14円	
連結配当性向	48.2%	42.7%			59.5%				

※ PPAは Purchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

- *1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。
- *2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。
- *3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

	17年度 見通し(最新)	17年度 見通し(期初)
PPAによる償却費 ※	▲400億円	▲390億円
スタートアップ費用ほか	▲60億円	▲90億円
合計	▲460億円	▲480億円

□上期の業績は、中国やインドネシアなど戦略市場での一般建機や鉱山機械、部品の売上げが好調であったことや為替が想定より円安に推移したことに加え、投資有価証券の売却益もあり、当初予想を上回りました。下期も建設・鉱山機械、及び部品の需要が順調に推移すると見られることから、業績見通しを上方修正しています。なお、為替については、現状のレートを考慮して、ユーロと中国元のみ、1ユーロ：123円、1元：15.5円と円安方向に見直しを行いました。

□連結売上高は期初見通しから+1,930億円上方修正し、2兆3,280億円の見通しです。営業利益も期初見通しから+600億円上方修正し、2,160億円の見通しです。

□従来ベースのコマツは営業利益率が11.6%です。

□なお、2017年度下期の、その他の営業収益・費用において、産業機械他部門での、のれんの減損等▲150億円を織り込みました。

□ROEは前年比+2.8ポイント改善し10.1%になる見通しです。

- 建設機械・車両は中国、インドネシアなど戦略市場での一般建機の売上と鉱山機械の売上を中心に想定を上回ったことに加え、下期為替の前提を見直すことにより、売上高は期初見通しから+2,050億円上方修正し2兆1,060億円に、セグメント利益も+760億円上方修正し2,150億円となる見通し。
- リテールファイナンスの売上高は、期初見通しから+95億円上方修正。セグメント利益も+5億円上方修正。
- 産業機械他の売上高は、期初見通しから▲120億円下方修正。セグメント利益も▲40億円下方修正。

□: 利益(▲損失)率 (): 外部顧客向け売上高

金額単位: 億円	2016年度		2017年度見通し(最新)		2017年度見通し(期初)		前年比(B-A)		
	(A)	(B)	従来コマツ	KMC	(C)	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	21,350	18,800	2,560	+5,250	+29.1%
建設機械・車両	15,765 (15,663)	21,060 (20,920)	18,150 (18,010)	2,910	19,010 (18,910)	16,460 (16,360)	2,560 (2,560)	+5,294 (+5,256)	+33.6% (+33.6%)
リテールファイナンス	490 (467)	575 (490)	575 (490)	-	480 (450)	480 (450)	-	+84 (+22)	+17.1% (+4.9%)
産業機械他	1,910 (1,899)	1,880 (1,870)	1,880 (1,870)	-	2,000 (1,990)	2,000 (1,990)	-	▲30 (▲29)	▲1.6% (▲1.5%)
消去	▲137	▲235	▲235	-	▲140	▲140	-	▲97	-
セグメント利益(▲損失)	9.8% 1,765	10.1% 2,360	12.6% 2,560	▲6.9% ▲200	7.7% 1,640	10.8% 2,030	▲15.2% ▲390	+594	+33.7%
建設機械・車両	10.3% 1,616	10.2% 2,150	12.9% 2,350	▲6.9% ▲200	7.3% 1,390	10.8% 1,780	▲15.2% ▲390	+533	+33.0%
リテールファイナンス	9.1% 44	19.1% 110	19.1% 110	-	21.9% 105	21.9% 105	-	+65	+147.0%
産業機械他	6.5% 124	6.6% 125	6.6% 125	-	8.3% 165	8.3% 165	-	+0	+0.3%
消去または全社	▲20	▲25	▲25	-	▲20	▲20	-	▲4	-

各セグメントの状況: (最新見通しの対前年実績との比較)

- 建設機械・車両:
 - 需要が増加している中国やインドネシアでの一般建機と鉱山機械の売上増加及びKMCの新規連結の効果により増収。
 - 利益面はKMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失となるが、従来コマツのペースでの利益拡大が図られるため、全体として増益。
- リテールファイナンス:
 - 主として北米での資産の増加などに伴い、増収。利益面も、前年度に計上した中国での債権に係る引当金の影響が無くなることから増益。
- 産業機械他:
 - 前年並み。

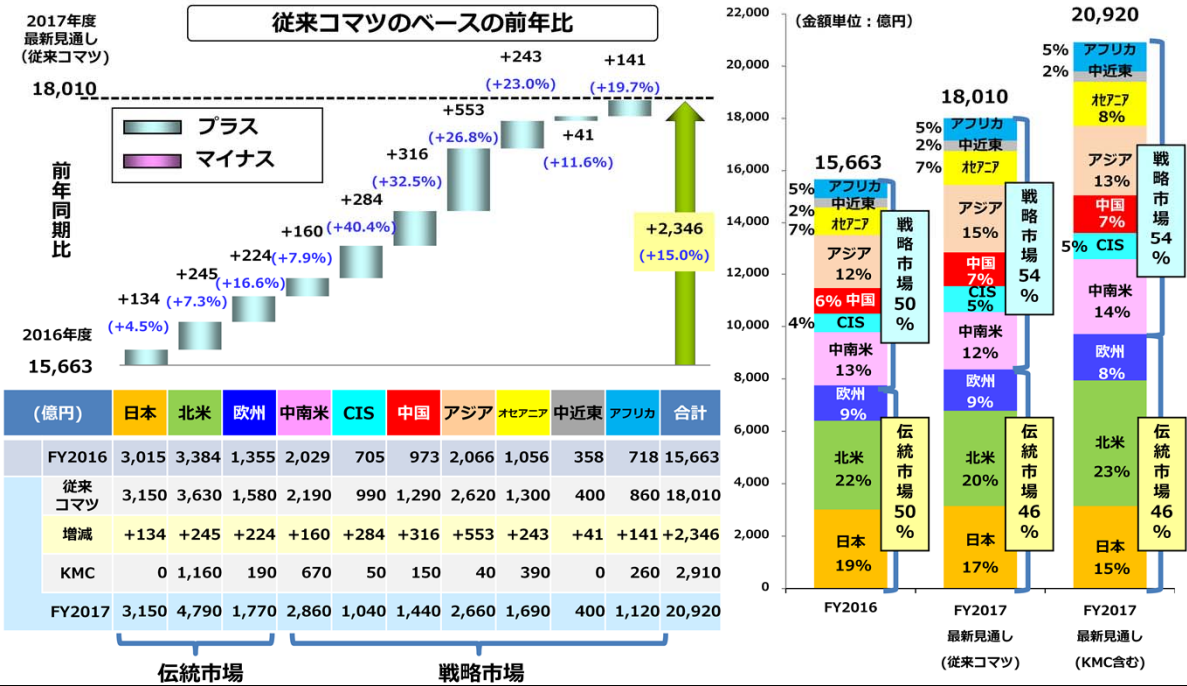
□建設機械・車両の売上高は、鉱山機械の売上が期初想定を上回っていること、中国、インドネシアでの売上が好調であることに加え、下期為替の前提を見直すことにより売上高は+2,050億円上方修正し2兆1,060億円となる見通しです。

セグメント利益も+760億円上方修正し、2,150億円となる見通しです。

□リテールファイナンスの売上高は、期初見通しから+95億円上方修正。セグメント利益も+5億円上方修正いたします。

□産業機械他の売上高は、自動車業界向け鍛圧機械および工作機械の販売見通しを保守的に見直し、期初見通しから▲120億円下方修正。セグメント利益も▲40億円下方修正いたします。

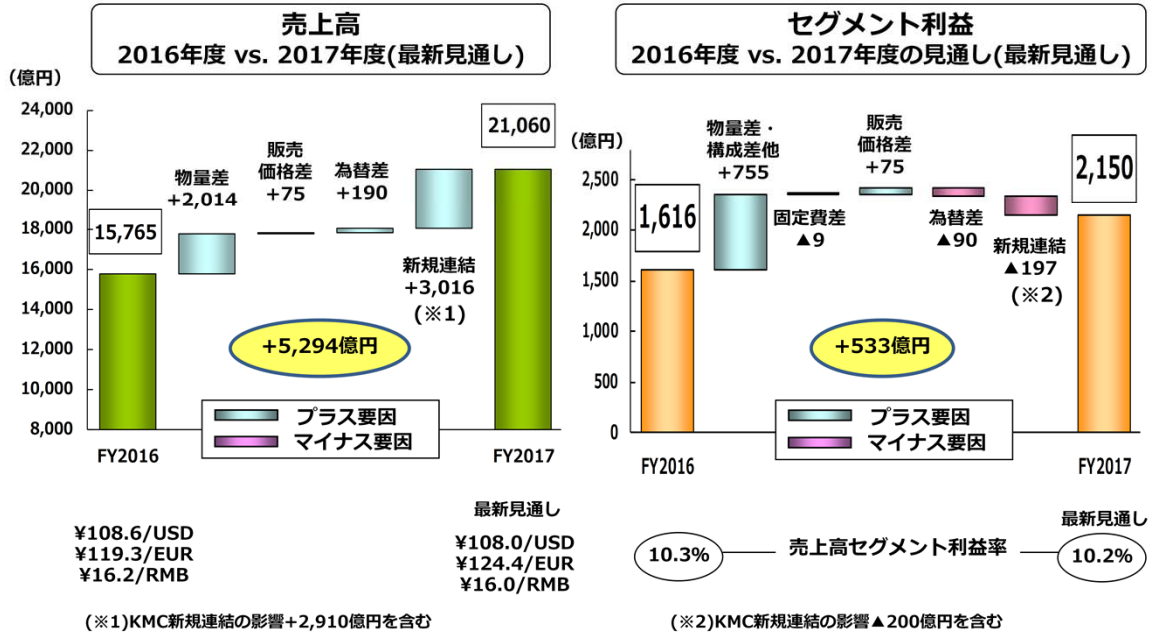
- ・需要が増加している中国、インドネシア向け一般建機と鉱山機械の売上高を主に上方修正。
- ・従来コマツの戦略市場の比率は54%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率も54%)



□想定より強い鉱山機械の売上と、需要が増加している中国、アジア向け売上高の見通しを増額しました。

□従来コマツのベースの戦略市場の比率は54%に上昇しました。KMCを含む全体での戦略市場比率も54%となりました。

- ・売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により前年比+5,294億円増収の2兆1,060億円、セグメント利益も+533億円増益の2,150億円となる見通し。
- ・売上高セグメント利益率は前年比▲0.1ポイント減の10.2%の見通し。



□売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年比+5,294億円増収となる見通しです。

□セグメント利益については、前年比+533億円の増益となる見通しです。

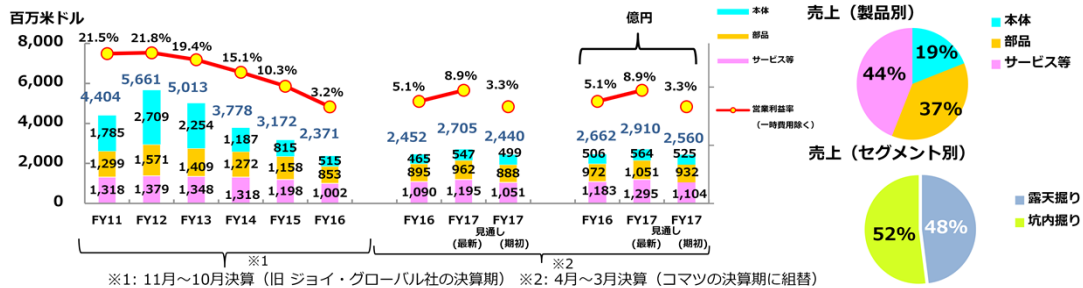
<建設機械・車両> 2017年度のKMCの業績見通し

- ・ 2017年度の売上高は、前年比+9.3%増の2,910億円の見通し。
- ・ 営業利益は一時費用を除くベースで260億円。一時費用▲460億円を織り込んだベースでは、▲200億円の営業損失となる見通し。

(金額単位：億円)	2016年度 実績(参考) (¥108.6/USD)(A)	2017年度 見通し(最新) (¥108.0/USD)(B)	2017年度 見通し(期初) (¥105.0/USD)(C)	前年比(B-A) (参考)	
				増減	増減率
売上高	2,662	2,910	2,560	+248	+9.3%
本体	506	564	525	+58	+11.5%
部品	972	1,051	932	+79	+8.1%
サービス等	1,183	1,295	1,104	+112	+9.5%
営業利益 <一時費用除く>	5.1% 134	8.9% 260	3.3% 90	+126	+94.0%
一時費用 (マイナスで表記)	▲102	▲460	▲480	▲358	-
PPAによる償却費	-	▲400	▲390	▲400	-
スタートアップ費用ほか	▲102	▲60	▲90	+42	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	1.2% 33	▲6.9% ▲200	▲15.2% ▲390	▲233	-

年度別売上高・営業利益率の推移

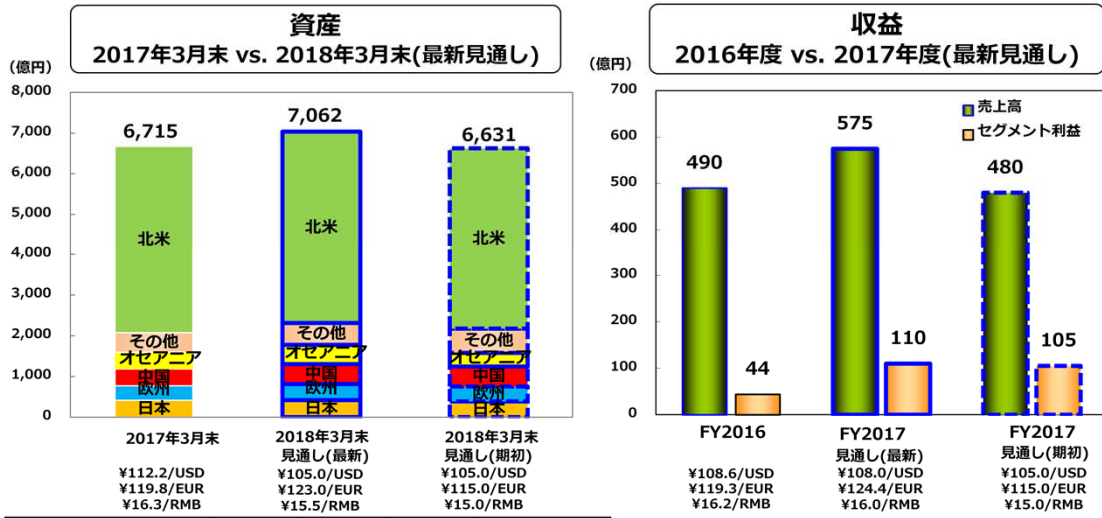
2016年度実績(組替後)



□2017年度の売上高の最新見通しは、前年比+9.3%増の2,910億円となります。

□営業利益は一時費用を除くベースで260億円となり、一時費用▲460億円を織り込んだベースでは、▲200億円の営業損失となる見通しです。

- ・資産は主に北米等でファイナンス契約の増加により前年度末比で増加の見通し。
- ・収益は中国で2016年度に積み増した引当金の影響がなくなるにより増益の見通し。



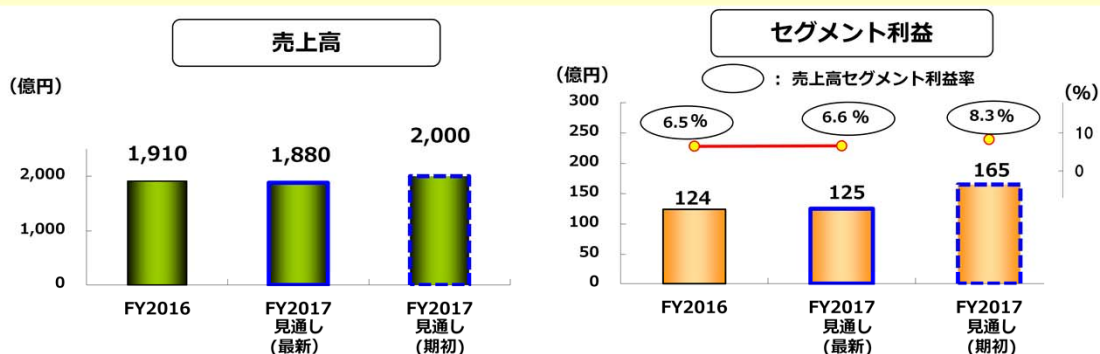
金額単位：億円	2017/3E (A)	2018/3E 見通し(B) (最新)	2018/3E 見通し(期初)	2017/3E比 (B-A)
借入金	5,060	5,452	5,068	+392
ネットベースの借入金	5,012	5,398	5,034	+386
ネットD/Eレシオ	3.65	3.88	3.69	+0.23ポイント

	FY2016 (A)	FY2017 見通し(B) (最新)	FY2017 見通し(期初)	前年比 (B-A)
ROA	0.7%	1.6%	1.6%	+0.9%

□リテールファイナンスの資産は、主に北米等でファイナンス契約の増加により前年度末比で増加の見通しです。

□収益については、中国で2016年度に積み増した引当金の影響がなくなるにより増益の見通しです。

- ・売上高は▲120億円下方修正し、前年比▲1.6%減収の1,880億円の見通し。
- ・セグメント利益は前年並の125億円。



売上高の内訳

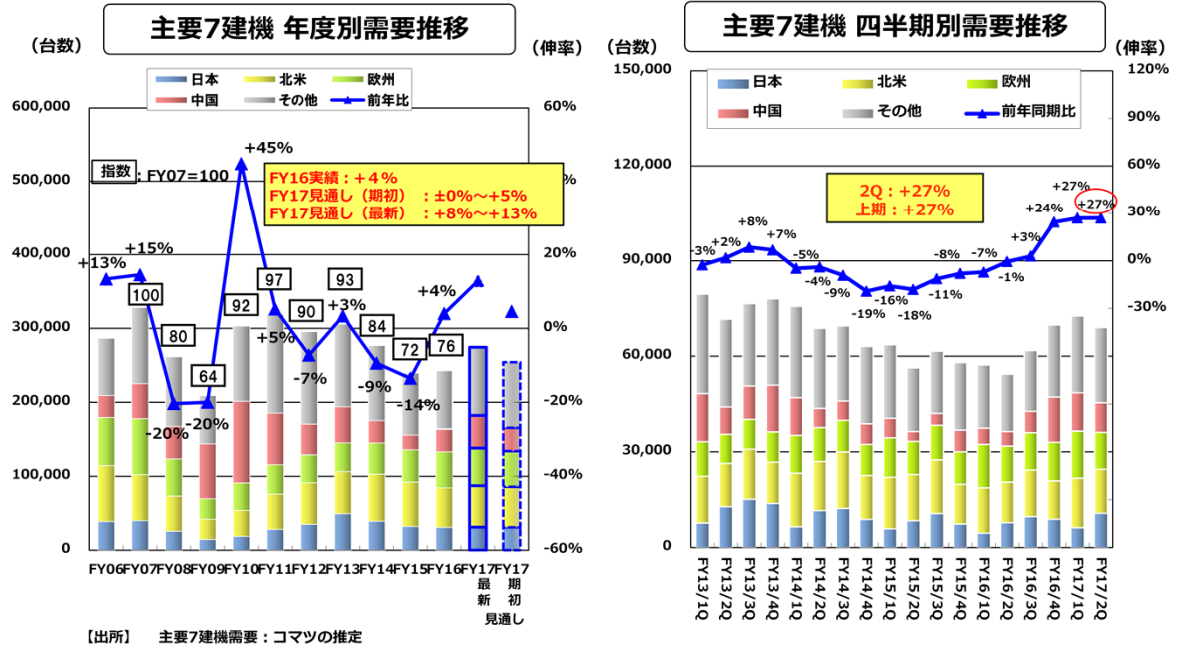
金額単位：億円	2016年度 (A)	2017年度 見通し(B) (最新)	2017年度 見通し (期初)	前年比 (B-A)	
				増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	566	521	590	▲44	▲7.9%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	552 [107]	672 [82]	721 [106]	+120 [▲24]	+21.8% [▲22.8%]
ギガフォトン	320	361	361	+41	+12.8%
その他	470	324	328	▲146	▲31.1%
合計	1,910	1,880	2,000	▲29	▲1.6%

□自動車業界向け鍛圧機械および工作機械の販売見通しを保守的に見直しし、売上高は▲120億円下方修正し、前年比▲1.6%減収の1,880億円の見通しです。

□セグメント利益は前年並の125億円の見通しです。

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・2017年度上期の需要は、前年同期比+27%。
- ・中国やインドネシアでの一般建機の需要、および鉱山機械の需要が堅調。
- ・年間の見通しを+8%~+13%増加に上方修正。



□主要7建機および鉱山機械の需要につきましては、従来コマツのベースでの推移を表しています。24ページから29ページまでが該当します。

□2017年度上期の世界需要は、前年同期比+27%の増加となった模様です。

□中国やインドネシアでの一般建機の需要、および鉱山機械の需要が伸長したほか、排ガス規制前の駆け込み需要があった日本、また北米や欧州の需要も堅調に推移しました。

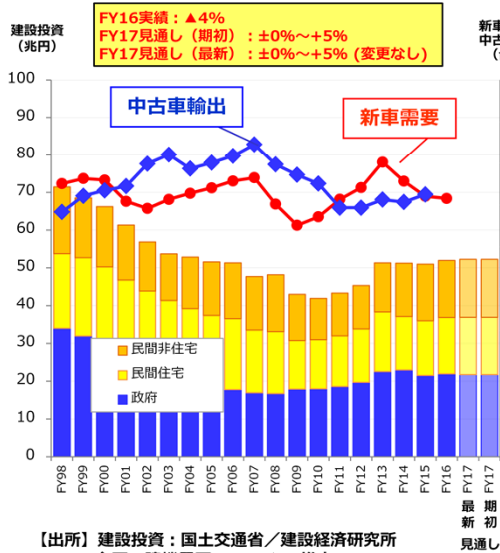
□下期については、上期同様、戦略市場における一般建機や鉱山機械の需要の増加は見込まれますが、昨年後半から需要が回復基調であることから、下期の需要の伸び率は鈍化することが予想されます。

□年間の需要見通しは、期初想定の±0%~+5%増加から、最新の見通しとして、+8%~+13%増加に上方修正致します。

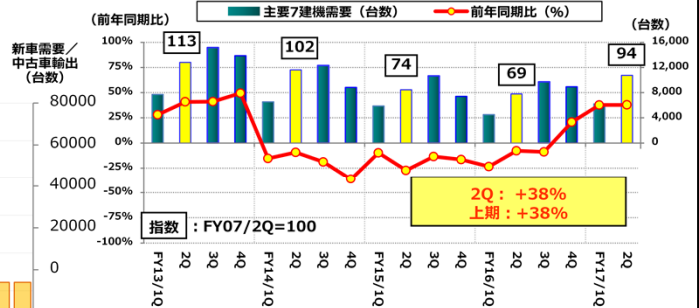
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

- ・ 2017年度上期の需要は、前年同期比+38%。
- ・ 2016年度第4四半期から続く国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要により、特にレンタル向けを中心に新車需要が増加。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更なし。

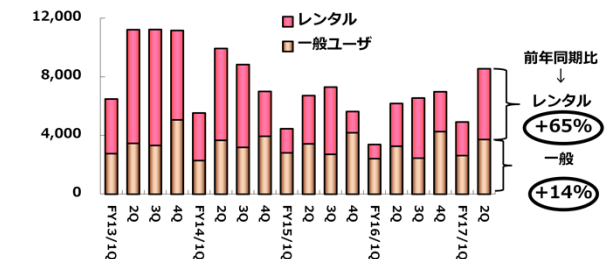
新車需要（主要7建機）と建設投資



主要7建機 四半期別需要推移



油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)

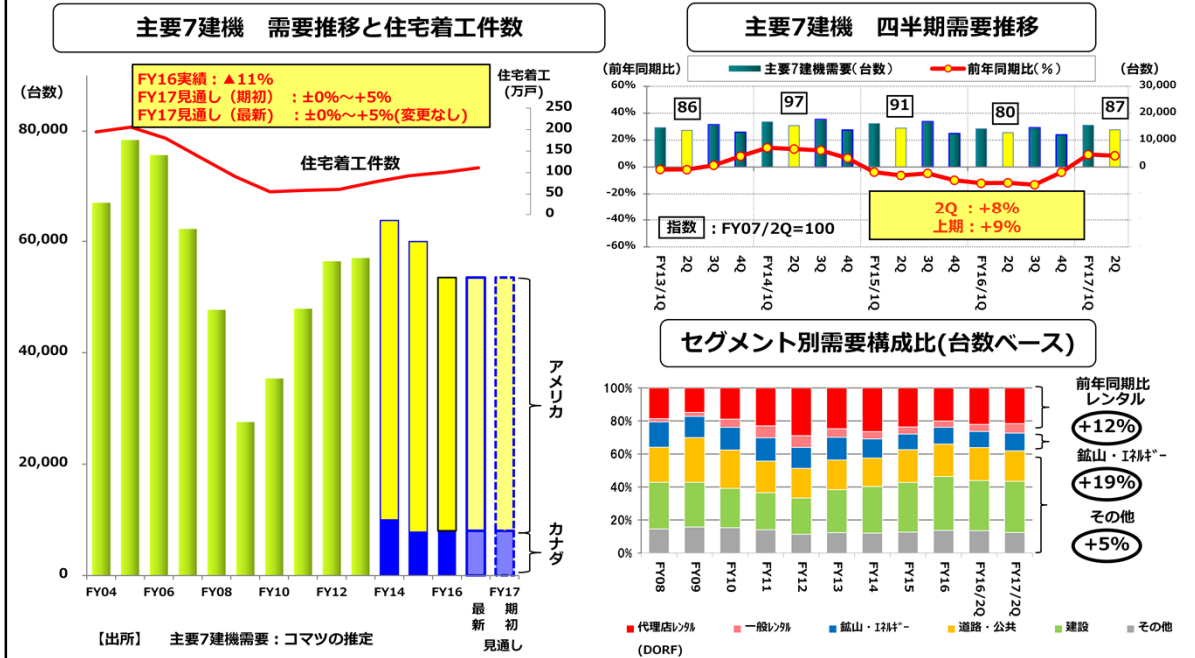


□2017年度上期の日本の需要台数は、前年同期比+38%増加となった模様です。

□2016年度第4四半期から続く国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要により、特にレンタル向けを中心に新車需要が増加しました。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・ 2017年度上期の需要は、前年同期比+9%。
アメリカにおいて、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加。カナダは一般ユーザ向け、レンタル向けともに回復し堅調。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更なし。



□ 2017年度上期の北米の需要は、前年同期比で+9%増加となった模様です。

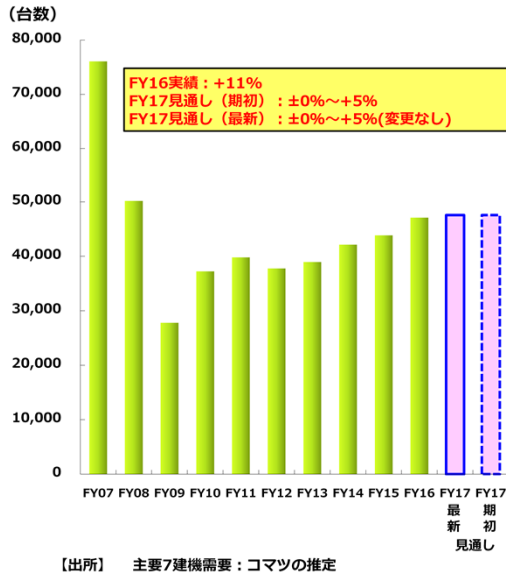
□ アメリカでは、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加しました。

□ カナダは一般ユーザ向け、レンタル向けともに回復し堅調に推移しました。

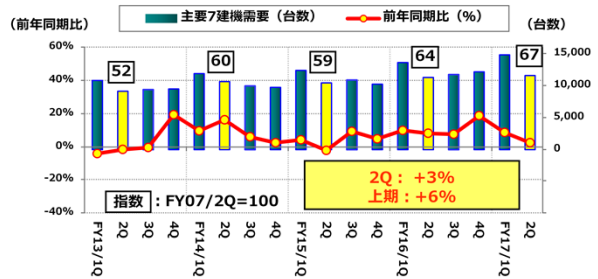
＜建設機械・車両＞ 主要市場の需要推移と見通し：③ 欧州

- ・ 2017年度上期の需要は、前年同期比+6%。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツに加え、北欧が堅調に推移。
- ・ 年間の需要は、期初見通しから変更なし。

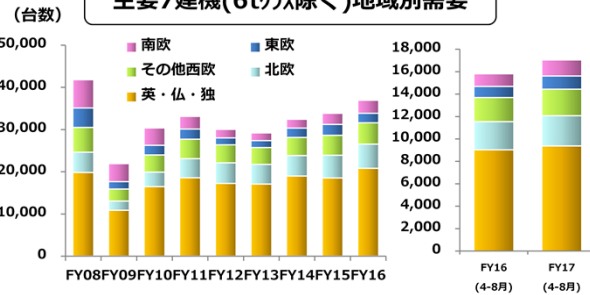
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



主要7建機(6tクラス除く)地域別需要



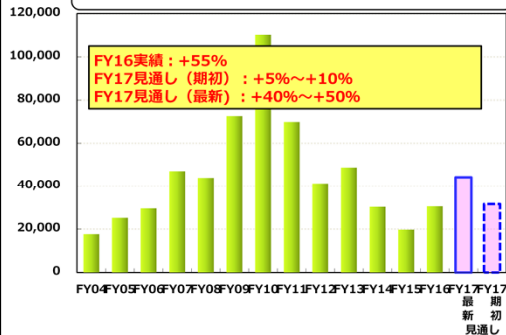
□2017年度第上期の需要は、前年同期比+6%増加となった模様です。

□引き続き主要市場であるドイツに加え、北欧が堅調に推移しました。

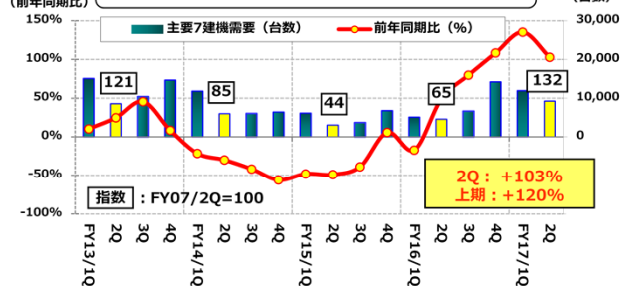
<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：④ 中国

- ・ 2017年度上期の需要は、前年同期比+120%。
- ・ 引き続き、インフラ工事が進行し、一般建機需要が伸長。
- ・ 年間の見通しは、+40%~+50%増加に上方修正。

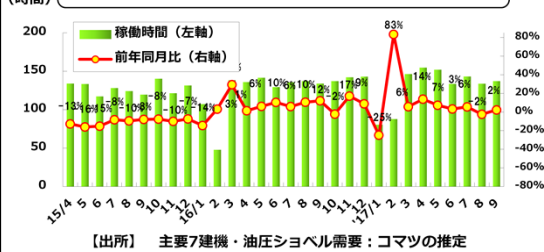
主要7建機 年度別需要推移 (外資メカ)



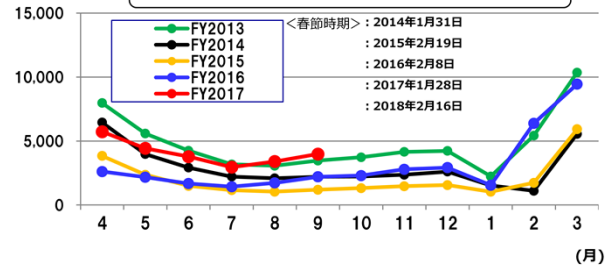
主要7建機 四半期需要推移 (外資メカ)



KOMTRAX(中国) 月平均稼働時間推移



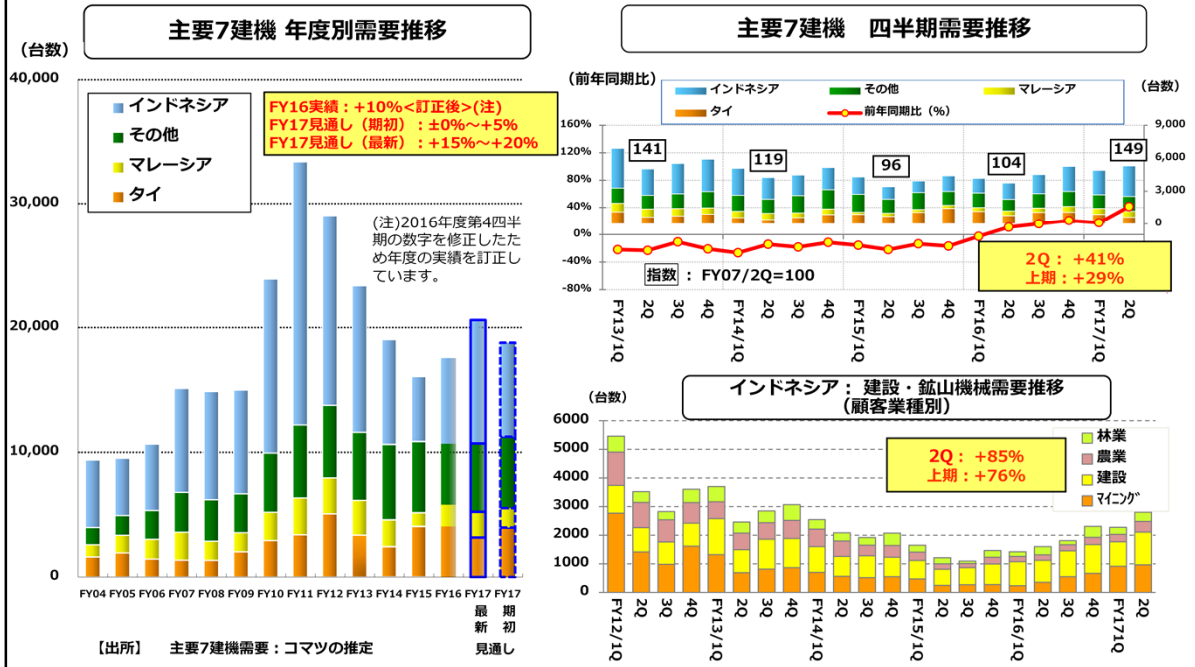
中国: 油圧ショベルの月別需要推移 (メカ含む)



□2017年度上期の中国の需要は、全国的にインフラ工事が進行している影響を受け、前年同期比+120%となりました。四半期ベースでは、昨年、2016年度第2四半期から需要は対前年でプラスです。

□上期および足許の状況を勘案し、年間の需要見通しは、期初想定 of +5%~+10%増加から、+40%~+50%増加に上方修正致します。

- ・ 2017年度上期の需要は、前年同期比+29%。
- ・ 最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加。タイの需要は減少傾向。
- ・ 年間の見通しを+15%~+20%増加に上方修正。



- 2017年度上期の東南アジアの需要は、前年同期比+29%増加となった模様です。
- 最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加しました。タイの需要は減少傾向です。
- 年間の需要見通しは、期初想定の±0%~+5%増加から、最新の見通しとして、+15%~+20%増加に上方修正致します。インドネシアで前年下期の需要が非常に高かったため、2017年度下期の需要の伸び率は鈍化すること、また、タイの需要が減少することを織り込んでいます。

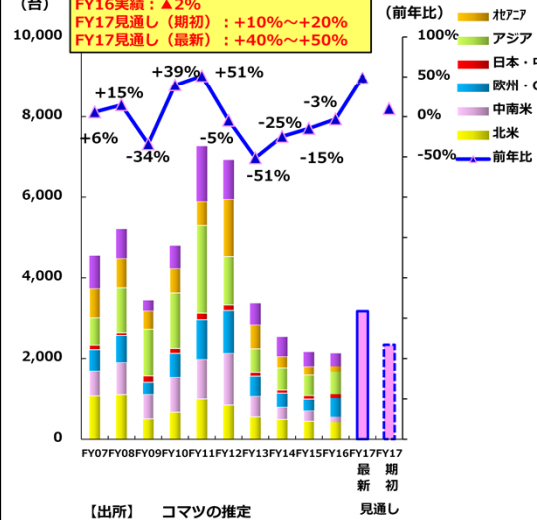
<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2017年度上期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比+71%。
- ・引き続きインドネシアなどで需要が増加しており、下期も堅調に推移する見通し。
- ・そのため年間の見通しを+40%~+50%増加に上方修正。

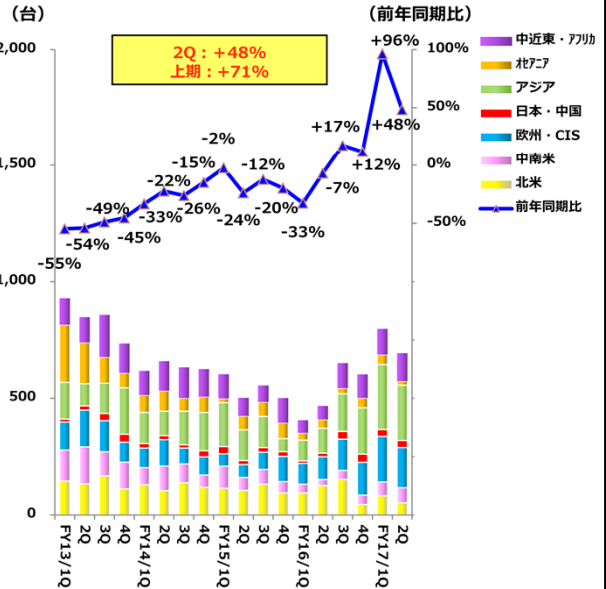
鉱山機械 年度別需要推移

・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブルドーザー：525HP (D375) 以上
 ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上
 ・モーターレーダー：280HP (GD825) 以上

(台)
 FY16実績：▲2%
 FY17見通し(期初)：+10%~+20%
 FY17見通し(最新)：+40%~+50%



鉱山機械 四半期別需要推移



□2017年度上期の鉱山機械の需要は前年同期比+71%増加となった模様です。

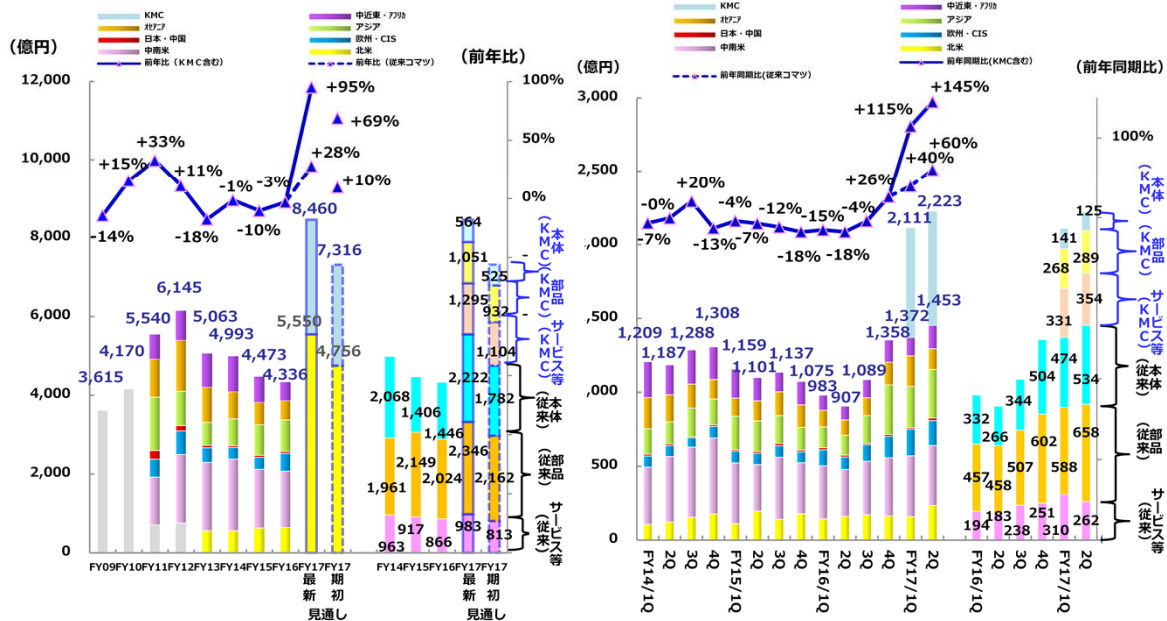
□引き続きインドネシアなどで需要が増加しています。

□そのため年間の需要見通しを+40%~+50%増加に上方修正致します。

- ・2017年度第2四半期の売上高は、前年同期比+145%増の2,223億円。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+60%増の1,453億円。
- ・従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が伸長。
- ・年間の見通しを前年比+95%増加の8,460億円に上方修正。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)

鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



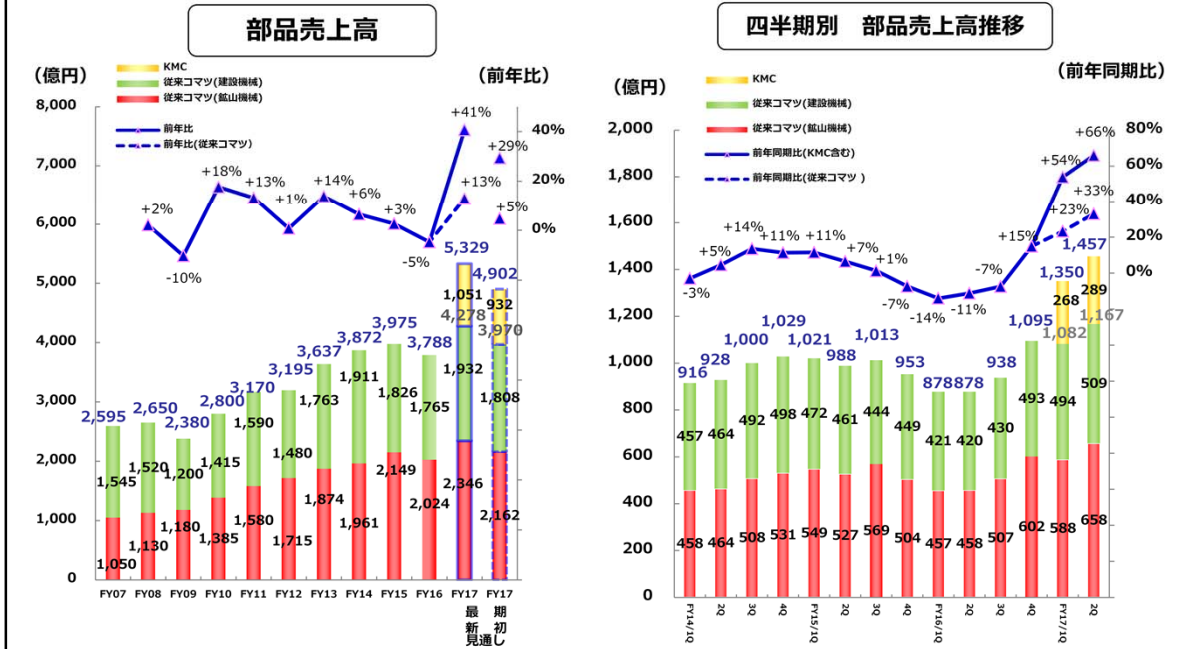
□当ページでは、2017年度からKMCを含めたベースでの鉱山機械の売上高を表しています。

□棒グラフの見方ですが、左側の年度別売上高、右側の四半期別売上高、それぞれ2017年度については、KMCの売上高を上乗せして表示しています。折れ線グラフの方は、2017年度について、実線はKMCを含むベース、点線は従来コマツのベースで伸び率を表示しています。

□2017年度第2四半期の売上高は、全体として、前年同期比+145%増の2,223億円となりました。KMCを除く従来コマツのベースでは前年同期比+60%増の1,453億円という状況です。

□従来コマツのベースでは、インドネシアなどでの需要増加の影響を受け、本体、部品、サービスともに売上が伸長しました。

- ・2017年度第2四半期の部品売上高は、前年同期比+66%増加の1,457億円。KMCを除く従来コマツのベースでは+33%増加の1,167億円。
- ・アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが伸長。
- ・戦略市場での一般建機の部品と鉱山機械の部品の需要増加などが見込まれるため、年間の見通しを前年比+41%増加の5,329億円に上方修正。



□当第2四半期より、KMCの部品売上高も上乘せして開示しております。

□2017年度第2四半期の部品の売上高は、前年同期比+66%増加の1,457億円となりました。従来コマツのベースでは、+33%増加の1,167億円です。

□アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上げが伸長しています。

□戦略市場での一般建機の部品と鉱山機械の部品の需要増加などが見込まれるため、年間の見通しを、前年比+41%増加の5,329億円に上方修正致します。

Ⅲ. KMC統合計画の概要

1. KMC統合にあたっての基本的な考え方・前提

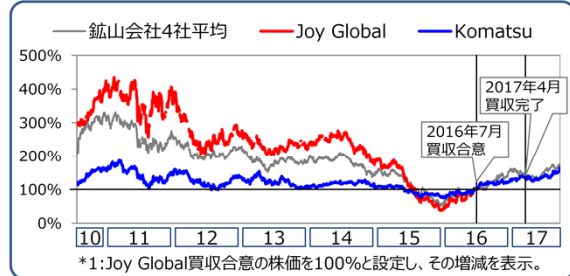
34

- ・KMCとの統合を進めるにあたり、“顧客へのサービスサポートのレベルを落とさないこと”が大前提。
- ・両社製品ラインナップに重複はなく、仮に現状のままでもマイナスの影響はない。今後、鉱山機械市場が回復に向かえば十分なリターンが期待できる。
- ・買収時の想定(鉱山機械のフルライン化、サービス組織の強化など)は期待どおり。
- ・鉱山機械事業のボラティリティを軽減する為、一般建機と鉱山機械の事業を別々の事業に切り分けず、一体の地域オペレーションを構築する。

1) コマツとKMCのプロダクトラインナップ ・重複なし

露天掘り向け製品	
コマツ製品	KMC製品
<p>油圧ショベル ブルドーザー ダンプトラック 機械駆動式ホイールローダー 電気駆動式ホイールローダー ロープショベル トリル ドラグライン</p>	<p>採掘機 運搬システム ルーフサポート ロードヘッダー シアラー LHD</p>

2) 鉱山会社、ジョイグローバル社、コマツの株価推移*1



3) 買収後半年間の振り返り ・想定どおり

	買収時の想定	買収後6か月の振り返り
1	顧客との強固な関係	<ul style="list-style-type: none"> ・直接販売/直接サービスのビジネスモデルは特にコマツ直営代理店地域で維持・強化可能。 ・サービス拠点の相互活用をすでに一部地域にて実施済。
2	商品・市場分野の補完性	<ul style="list-style-type: none"> ・露天掘りのフルライン化、及び坑内掘り市場参入可能。
3	両社の企業文化の親和性	<ul style="list-style-type: none"> ・安全を第一、顧客中心主義の企業文化はコマツの文化と親和性が高い。 ・マイニングプロフェッショナル人材の獲得。
4	成長性とシナジーの獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の経営資源を活用し、シナジー創出のためのタスクフォースチームを設立。

2. 統合計画とシナジー

・<1.売上拡大>、<2.コスト削減>、<3.投資抑制>という3つの視点でシナジー創出を目指す。
 ・直営代理店地域では18年度末、その他の地域は19年度末迄の統合完了を目指し、シナジーの最大化を図る。

シナジー	アプローチ	具体例
1. 売上拡大	1) 新車販売の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・KMCの強みを取り込みつつ、直接販売・直接サービスを維持・強化。 ・両社が強みを持つ顧客基盤や販路を活用し、新車販売拡大。 ・両社設備の効果的な活用によるリビルド・リマン売上拡大。 ・双方のグループサプライヤの部品を積極活用することで、外部流出していた売上を取り込む。
	2) パーツ・サービス売上の拡大	
	3) ソリューションビジネスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・フルラインナップ化に加え、ICT技術を組み合わせたソリューションを提供し、パッケージ商談への積極参入により売上拡大。
	4) 新製品の開発	<ul style="list-style-type: none"> ・コマツとKMC技術を組み合わせた新製品投入により、売上拡大。
2. コスト削減	1) 生産拠点の業務統合	<ul style="list-style-type: none"> ・KMCと従来のコマツグループとのクロスソースを推進。 ・本体生産は、マザー工場での合理化を推進。 ・共同購買を推進。
	2) 鉱山現場の業務統合	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱山における部品保管倉庫やサプライチェーンオペレーション統合によりコスト削減。
	3) 管理部門の業務統合	<ul style="list-style-type: none"> ・人事、経理・財務、法務などのバックオフィス業務の統合によりコスト削減するとともに、ガバナンス、コンプライアンスを強化。
3. 投資抑制	1) 各地域における投資抑制	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の重複投資(生産/サービス拠点の新設など)を精査。

<想定シナジー（2021年度 目標）>
 ・KMC売上高の約10%

3. 統合効果の例

- ・買収前から進められていた構造改革は計画通り継続。露天掘りの分野で既に完了済み。
- ・地域統合において幾つかのクイックウィン（直ちに実行して効果が出てくるもの）を実施中。一部で目に見える成果も獲得済。

1) 買収前から進められていた構造改革の実施状況

	地域	分野	進捗状況	完了時期
1	米国	露天掘り	<ul style="list-style-type: none"> 一部の板金・溶接工場の閉鎖 モーターの生産を集約 製鋼工場売却 	2016年7月 完了済み
2		坑内掘り	<ul style="list-style-type: none"> 一部の工場の閉鎖（済） 工作機械等資産の売却（済） 土地・建物の売却先を検討中。 	2017年度 完了予定
3	中国	坑内掘り	<ul style="list-style-type: none"> 一部の工場の閉鎖（済） 工作機械等資産の売却先を検討中。 土地・建物の売却先を検討中。 	2018年度 完了予定

2) 実行中のシナジー(クイックウィン)の例

バックオフィスの統合、双方の生産拠点を活用したコンポーネントの修理、共同訪問による顧客の信頼獲得、共同購買など実施中。

 **米国**

米国
コマツ

シェアードサービス部門

KMC

人事

経理・
財務

法務

・米国コマツ本社(シカゴ)とKMC本社(ミルウォーキー)のシェアードサービス体制は既に確立済。

 **ブラジル**



・KMCの拠点にてコマツ製品のシリンダー、バケット、ダンブボディの修理業務を実施済。

 **チリ**

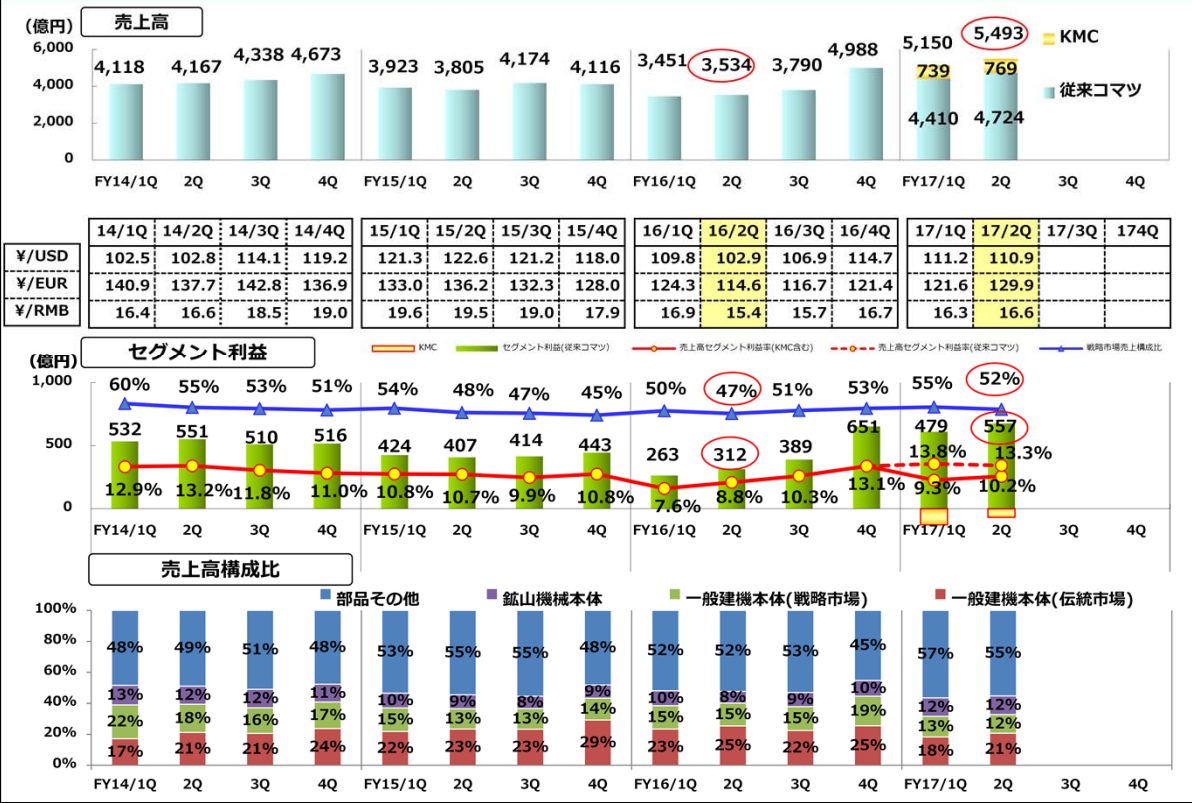


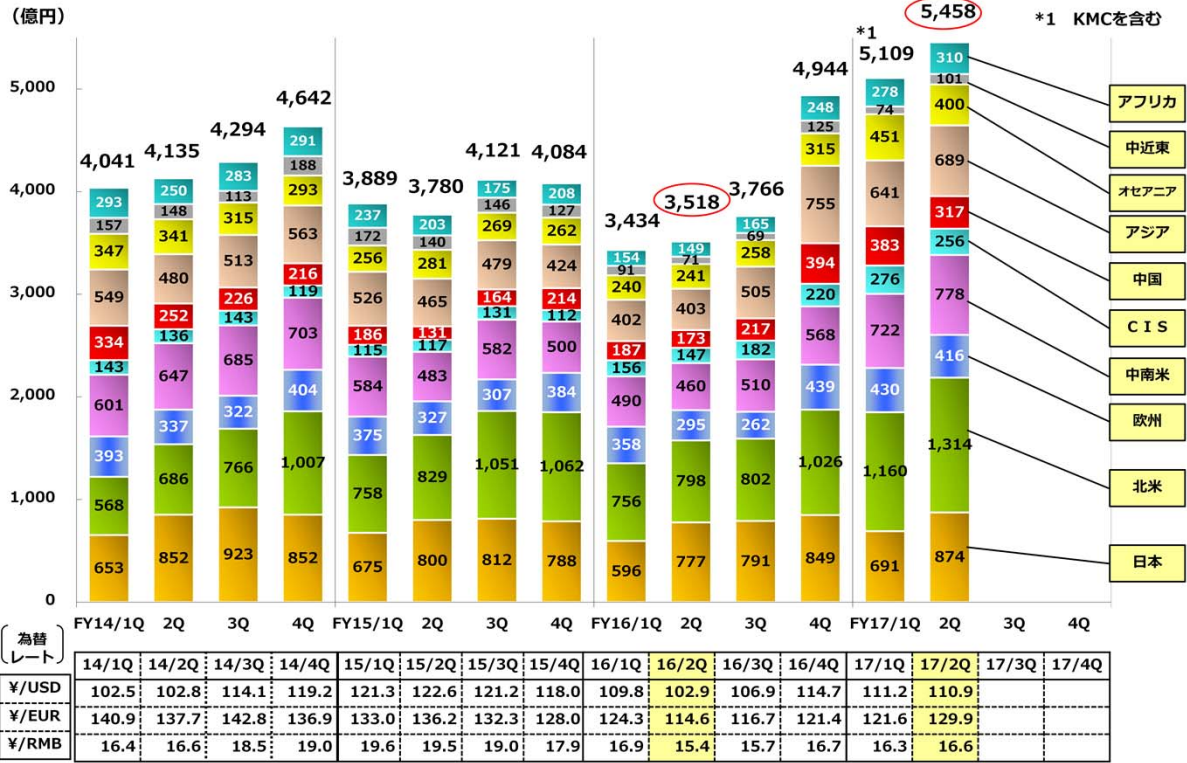

・コマツの拠点にてKMC製ローブショベルのシリンダー修理業務を実施済。

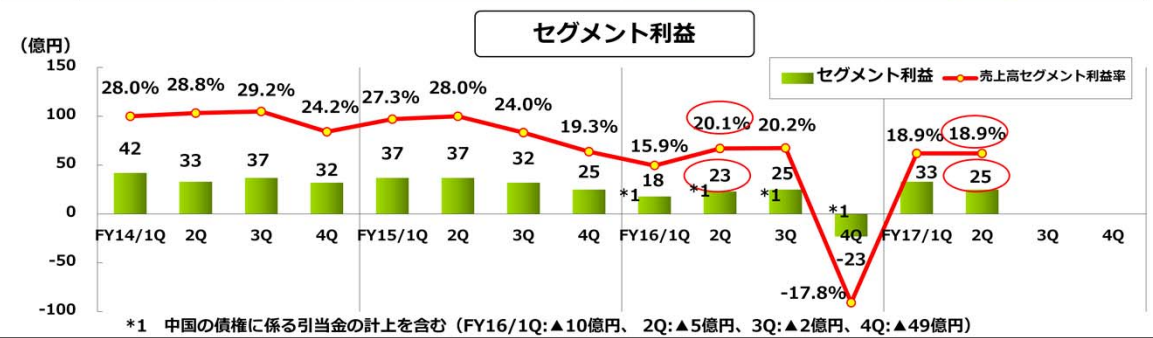
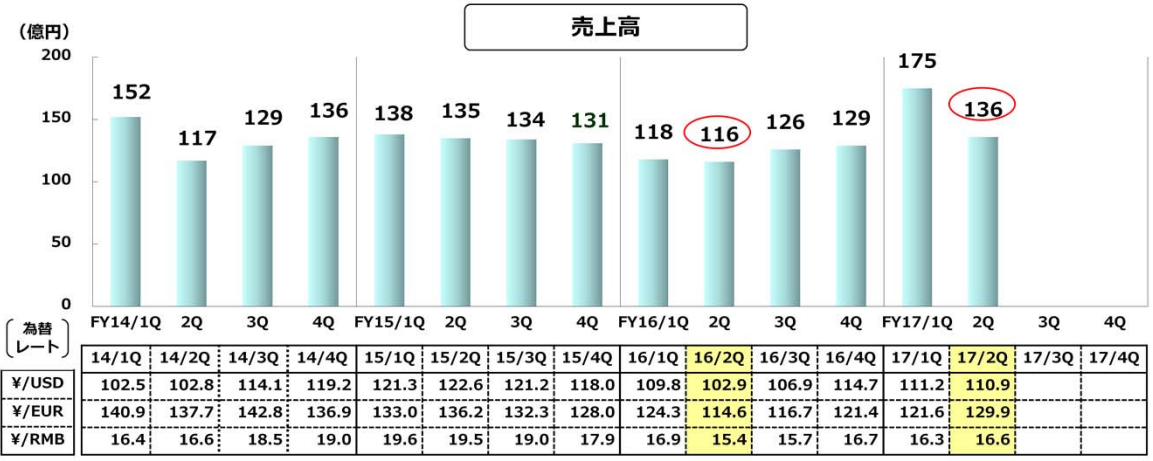
・KMCの拠点にて、コマツ製大型ブルドーザーのブレード修理業務を実施済。

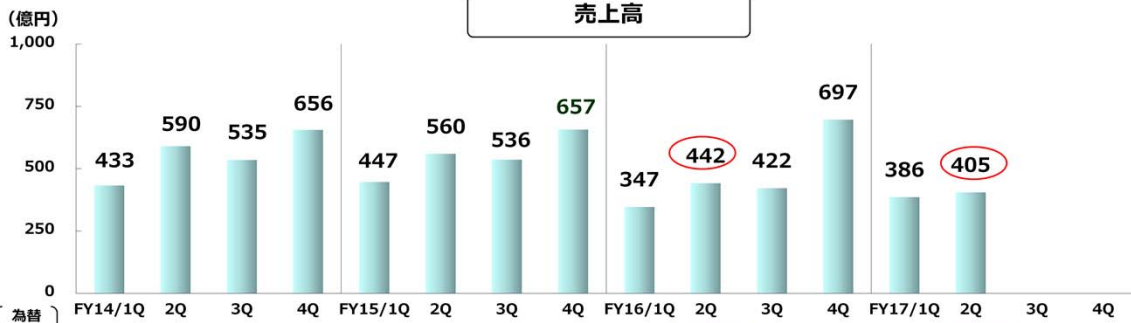
参考資料

<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

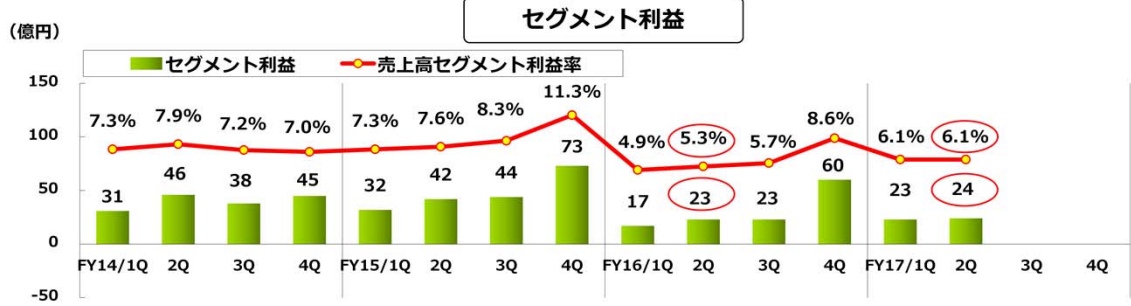


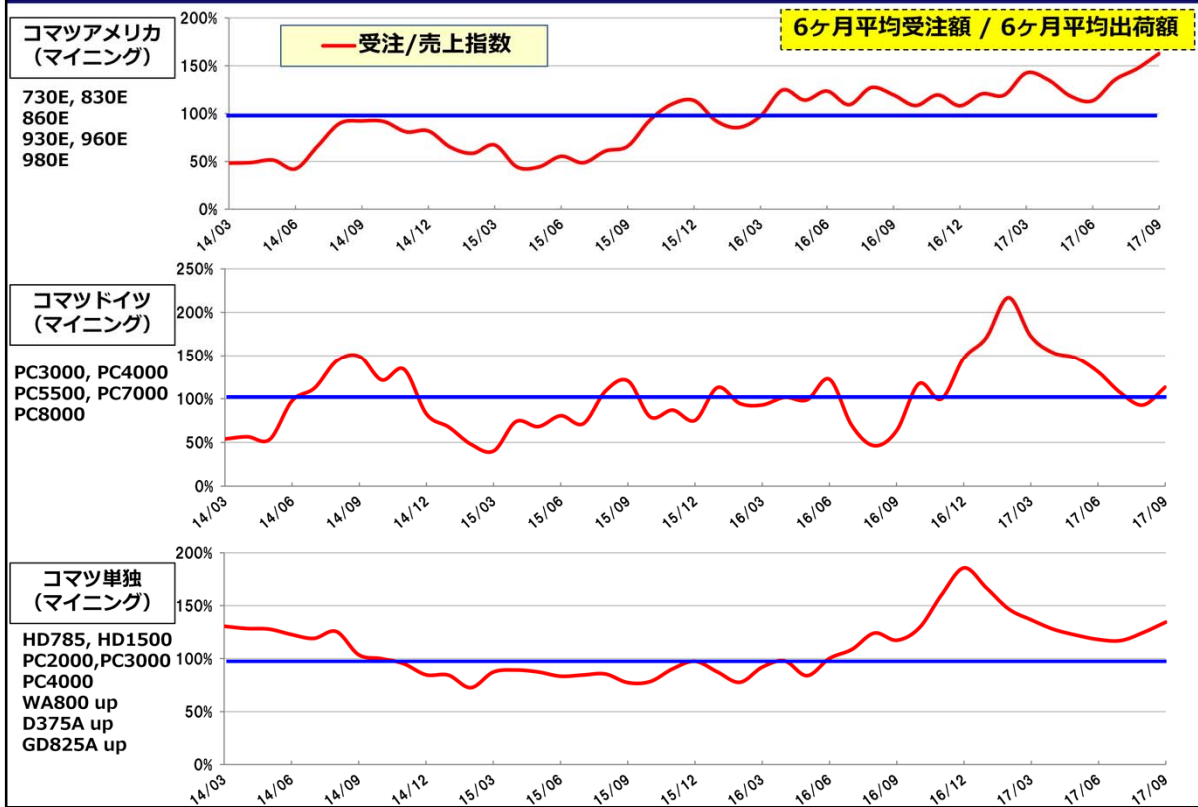






為替レート	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9		
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9		
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6		

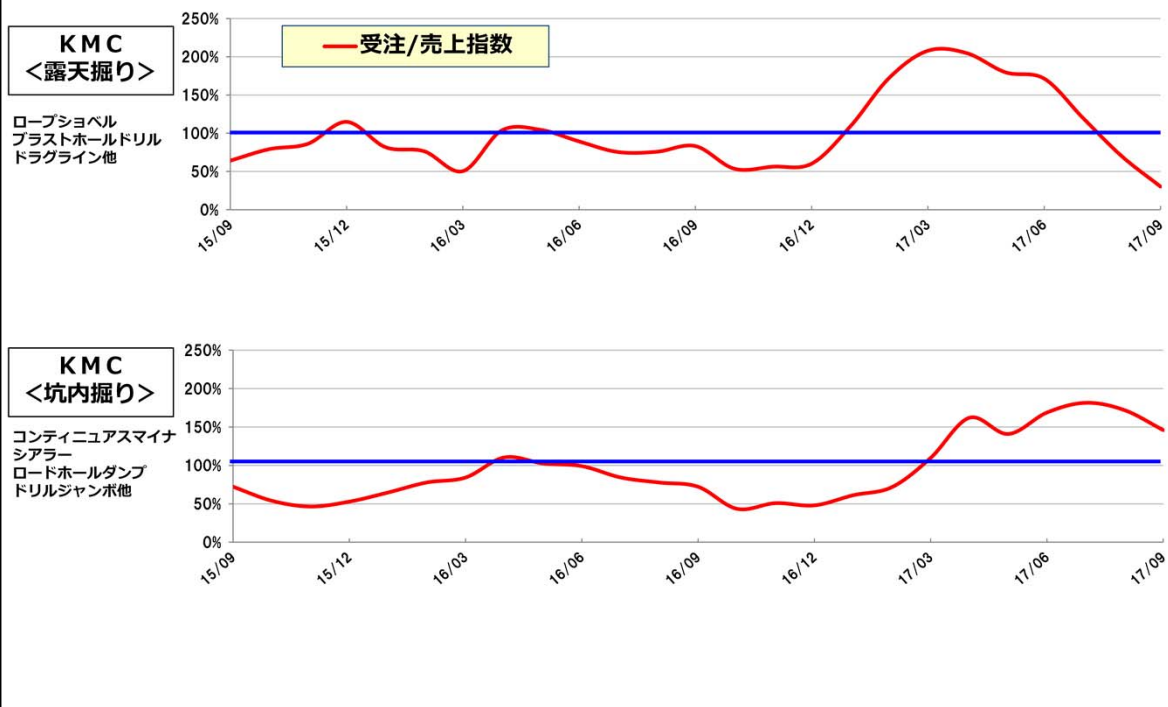




□ 鉱山機械本体の受注と売上の指数の推移を示しています。

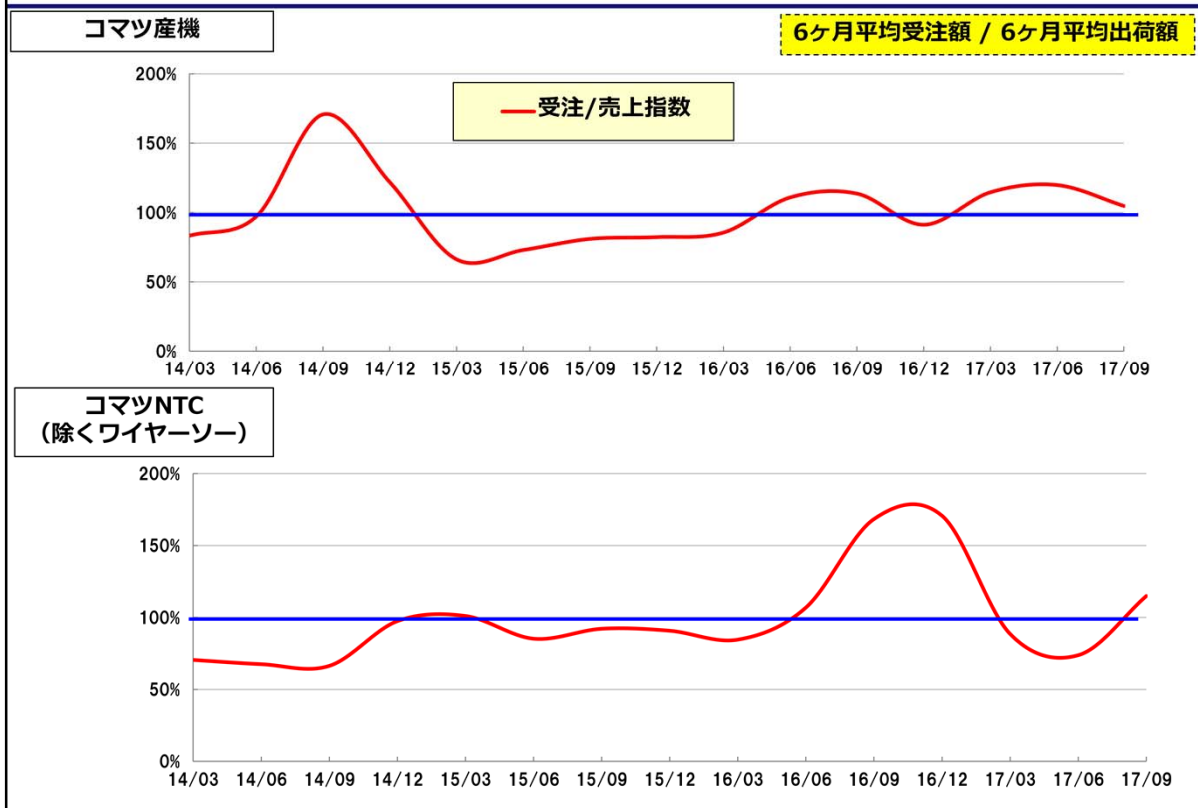
□ グラフは直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

6ヶ月平均受注額 / 6ヶ月平均出荷額



□ KMC製の鉱山機械本体の、2015年9月以降の受注と売上の指数の推移を示しています。

□ 上段がロープショベルやブラストホールドリルなどの露天掘り機械について、下段がコンティニュースマイナやシアラーなどの坑内掘り機械についての指数の推移です。



- 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。
- グラフは直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



本年9月より日本で販売を開始した
中型油圧ショベル「PC200-11」
(オフロード法2014年基準適合)

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<https://home.komatsu.jp/>